

ふゆのたのしみ  
冬芽  
写真館

葉を落とし、すっかり枯れてしまったように見える植物たちも、じつは春に向けて準備を進めています。晩夏から秋にかけて作られ、越冬して、春になると生長を始める芽のことを「冬芽（ふゆめ）」と呼びます。厳しい冬を越えるため、植物の種類によってさまざまな対策をしています。花や実と違い、冬芽はどの植物も同じ時期にできます。同時に見比べることができるのは冬だけのたのしみです。

重ね着タイプ

芽鱗（がりん）と呼ばれるうろこ状のものを何重にも重ね着しています。1～2枚程度の重ね着から、もともと寒い地方に生えている落葉樹では30枚にもなるものがあります。



コナラ



ドウダンツツジ

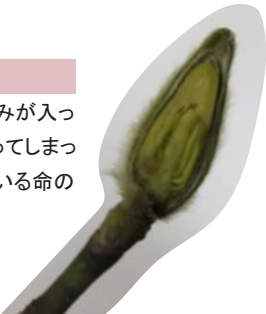


ムクノキ

ろうそくの灯のよう  
学習館周辺にあります

冬芽を分解してみると…

中には小さく折りたたまれた葉や花のつぼみが入っています。やわらかく未熟な葉が寒さで凍ってしまったり、鳥や虫に食べられないように守っている命のカプセルなのです。

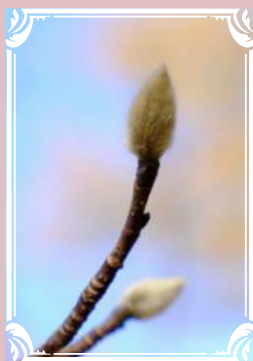


もふもふタイプ

帽子状の芽鱗が、ふくらんだ冬芽に押し上げられて落ちると、中から毛でおおわれた冬芽が出てきます。



ネコヤナギ



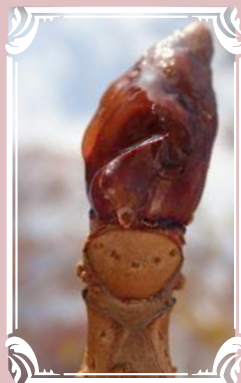
コブシ



開花が近づくと  
花が必ず北を向くため  
別名コンパスプラント

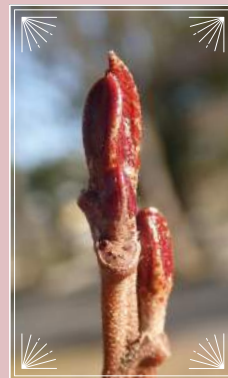
コーティングタイプ

冬芽の外側にロウ物質や樹脂が出て、芽鱗の表面やすき間を覆っています。寒さに加え乾燥にも強いタイプです。



トチノキ

ネバネバはしだいに  
乾いていきます



ハンノキ

雄花と雌花の  
違いも見どころ

ハンノキの  
雄花と雌花



顔をさがせ！

枝から葉が落ちた後、葉がついていた所に木の種類によって独特の痕が残ります。これを「葉痕（ようこん）」といいます。水や養分を運ぶ通路のあとが顔のように見えるものがあり、じっくり観察するととてもユニークです。



シナサワヅルミ

オニグルミ

アジサイ

フジ

風の子タイプ

芽鱗を持たない裸の芽が縮こまっています。やや暖かい地方に生えている落葉樹に多い傾向があります。表面に細かい毛がびっしり生えている場合もあります。

花の芽と葉の芽が  
別々になっています



ミツマタ

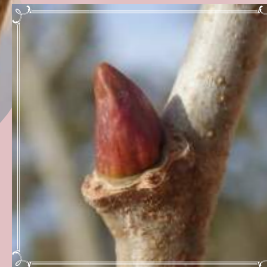


鮮やかな紫色の  
実も見どころ

ムラサキシキブ

かくれんぼタイプ

芽が小さいうちは葉の柄をかぶって隠れています。季節が進み、葉が落ちると芽が姿を現します。



プラタナス